

あばしり

市議会だより

第60号

平成22年8月

発行／網走市議会

編集／市議会だより編集委員会

網走市ホームページ
<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/>
このページの「市議会」をクリックして下さい。

目次	p 1	フォトジャーナル
	p 2	6月定例会のトピックス
	p 3	行政視察報告
	p 4~5	一般質問から
	p 6	一般質問から・議決結果等



photo journal

フォトジャーナル 天都山展望台を視察

六月十八日に行われた、経済建設委員会の天都山展望台及び流水館の視察には、委員外議員六人も同行しました。

名勝「天都山」展望台からの眺めは、知床連山から、網走湖や大曲湖畔園地が見渡せるもので、その名に恥じぬ素晴らしい眺望であり、網走観光において、大変重要であることを各人が改めて認識しました。

現在、網走市から示されている天都山展望台改築可能性調査報告や、これまでの資料によると、「周囲の樹木が高くなり、見通しが悪くなっている」ということでありましたが、実際の視察した際にはそのことよりも、現在検討されている高さになれば、能取湖やサロマ湖まで遠望可能となるということであり、流水の勢力減退などの影響で、岐路に立つ今後の観光戦略を考える上で大変重要となる、天都山展望台の建てかえについては、時間をかけてしっかりと議論し、検討する必要がある課題であると感じました。

また、以前から指摘されていた階段の昇降については、訪れていた観光客の方々もエレベーターの必要性について感じられており、実際に階段を昇った各議員も整備の必要性については感じたところでありました。同時に視察した流水館の整備、そして、大曲湖畔園地の整備と併せて、一体的な観光振興策が、必要な状況であることを感じました。

6月定例会のトピックス

網走市税条例の一部を
改正する条例案を可決

今定例会に提案された議案の中で、七件の条例の一部を改正する提案があり、特に市民に直接かかわる条例改正について掲載いたします。

いずれも国の地方税法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、改正するものですが、概要は次のようになります。

一つには、個人住民税に係る扶養控除に関する改正で、年少扶養親族（十六歳未満）に係る扶養控除（三十万円）の廃止により給与所得者及び年金所得者の扶養親族に係わる申告書提出義務を新設することになりました。国の「子ども手当」の支給開始に伴い、平成二十三年度から所得税、平成二十四年度から個人住民税の扶養控除がそれぞれ廃止になります。これにより、実質的に増税になる世

帯が相当数増えることとなります。

二つには、金融証券税制に関する改正で、金融所得課税の一体化の中で個人の株式市場への参加を促進する観点から、平成二十四年度から実施される上場株式等に係わる税率が現在、暫定的に一〇%であったのを本則の二〇%に戻すことにあわせて、非課税口座内の小額上場株式等に係わる配当所得及び譲渡所得等の市民税非課税措置の創設に伴う改正をするものです。この非課税口座を創設することにより、個人の株式投資を促進するものです。

国民健康保険条例の
一部改正の条例案を可決

国が、国保料の賦課限度額に関して、施行令の一部を改正したことに伴い、網走市としても中間所得層の負担が過度にならないよう、国民健康保険条例の一部について所要の改正を行うとの提案があり、概要は次の通りです。

①賦課限度額四十七万円を五十万円に改定②後期高齢者支援金等賦課限度額十二万円を十三万円に改定③国保の財政安定を図る目的から保険財政共同安定化事業及び高額医療費共同事業を引き続き継続するための改正を行う④所得税法等の一部を改正する法律の法律名称の変更に伴う改正を行うというものです。



本会議での採決

これらの条例改正について、所管委員会で審査した結果、大方の委員の賛成で原案可決すべきものとして、最終日の本会議に各委員長から報告がありました。それに対して、日本共産党議員団が反対の立場から討論があり、地方税法の一部改正については、個人住民税に係わる扶養控除廃止は増税になる。金融証券税制に関する改正では、金持ち優遇で、庶民の預貯金金利は

ゼロ金利を継続しており、今、やるべきは庶民の預貯金にこそ優遇口座を設けるべきであり、国保条例の改正については、中間所得層の負担が過度とならないようにとあるが、実際には、保険料が下がらない。また、最高限度額の層にも保険料の滞納者がいるように所得割率や応益割率が高いため高額所得と言えない人までが限度額を払っている。必要なのは、国の負担率を以前の負担率に戻すことであると、反対理由を述べましたが、採決の結果、原案可決すべきものと決しました。



行政視察報告

総務文教委員会

委員長 小田部 善治

今回の委員会調査は、
一、西宮市の多重債務者対策について、相談窓口や、市の収納部署と警察、弁護士、司法書士会などを横断的に組織した「多重債務者対策連絡協議会」の債務者の実情に即した活動と今後の課題について調査。

一、大和郡山市の公用車の集中管理については、実働データの調査、配車・駐車場・メンテ・更新・燃料・ネットの活用など徹底した一元管理の効果を検証。
一、墨田区の学力向上「新すみだプラン」の「開発的学力向上」を核とした「学校・家庭・地域の教育力の向上」の事業展開と成果について学ばせていただきました。

以上三点について調査致しましたが、早速今議会の一般質問に活かされるなど、今後の委員会活動を通して市の政策向上に役立つものと確信しています。



大和郡山市を視察

生活福祉委員会

委員長 佐々木 玲子

今回の視察は、テーマを「ごみ処理施設・健康増進施設・住民参加型ごみ処理に決め実施いたしました。」

大阪府堺市では「亜臨界水ごみ処理技術」についてで、処理後再利用可能物質に変化する画期的な技術で、開発過程を踏まえての説明は説得力があり、参考になる手法と強い手応えを感じました。

同じく、ごみ処理施設の焼却余熱を活用しての健康増進施設は大規模な費用がかかっており参考にならないが、予想以上の利用率から健康維持に関心が高いのは明確で、当市らしい健康増進の方法を積極的に検討することが急務と強く感じました。

千葉県八千代市の市民参加型廃棄物処理基本計画は、当市で行っている手法と大差なく、他市に誇れる行政運営が証明されたと言えます。



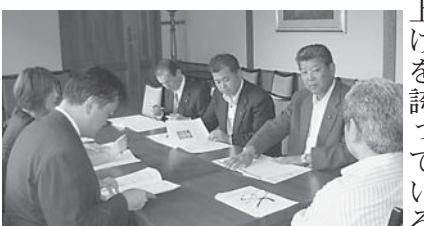
堺市「リマテック株」を視察

経済建設委員会

委員長 水谷 洋一

今回の行政視察では四カ所の自治体と団体を訪問し、その一つの、大分大山町農協について報告します。この農協は「梅栗植えてハワイへ行こう」というスローガンを掲げて、農家所得の向上に成功した農協で、その加工品を作ることで、地域おこしと農家の所得向上を図り、現在では、全国梅干しコンクールを実施するまでに至っています。このコンクールでは七百近い応募があり、そのレシピのノウハウとアイデアを、農協が収集できるメリットは計り知れないという。

また、農家の野菜直売所も運営されているが、その日出荷した野菜の売れ残り対策から、地元野菜を中心に大皿料理八十品のバイキングレストランを運営し年間五億円の売り上げを誇っている。料理するのは地元のお母さんたち。「うちのレストランには一流のシェフはいないが一流のシェフ(主婦)がいる」と語る。
今後の網走の観光と農業の結びつきのあり方に大いにヒントになる運営だ。



大分大山町農協を視察

一般質問から

福祉施設の防火対策について

公明クラブ 高橋 政行



問) 今年3月に札幌市の認知症高齢者グループホーム「みらいとんでん」で発生した火災は、自力で逃げる事が難しいお年寄り7人の命を奪いました。当市のグループホームにおいて、スプリンクラーの設置を急ぐべきと思うが市長の御所見を。

答) 民間のグループホームが7ヶ所あるが、このうち4カ所の施設については、スプリンクラーは設置されており、2カ所についても、今年度国の交付金を利用して設置を予定している。

問) 避難についてはマニュアルはあるものの、認知症の人は普段と違うことが起きると動揺する。誘導は難しいが地域の力を借りられるようネットワークをどう作るかも課題と思われるが、市長の見解を。

答) 消防署と連携し避難訓練が積極的に行われている、地域ぐるみでの支援が極めて重要と、避難にかかる支援協定を結んでいるところも出てきており、こうした取り組みを広めていくことが重要と考えている。

介護従事者の処遇改善と商店街のコミュニティの場について

民主市民ネット 渡部 眞美



問) 昨年4月に介護報酬3%、障害福祉サービス報酬5.1%引き上げられたが、当市の介護職員の改善状況と「処遇改善交付金」の申請状況を伺う。

答) 個別実態として手当による増額、パート職員の正職員化、3,000円から7,000円の定期昇給が行われており処遇改善に寄与していると考えている。交付金申請状況は、介護保険事業所の67%で、申請していない事業所に対し積極的な活用を要請している。

問) 障害福祉サービスの市町村実施の地域生活支援事業の単価見直しも必要では。

答) 報酬改定を実施した市は当市(道東6市中2番目)より低い状況。今後の国の動向をみながら検討しマンパワー確保に努める。

問) ラルズ撤退後の中央商店街に、買い物を中心としたコミュニティ拠点づくりの対策が必要では。

答) 金市館ビルの営業再開は困難。新たなまちプラの開設を検討中で、にぎわいを取り戻し、魅力ある商店街にしていくために、イベントやチャレンジショップなど新たな事業に取り組む必要があると考える。

天都山展望台建てかえ構想について

平成会 宮川 隆昌



問) 温暖化問題が議論されている折から、建てかえを機に流水研究機能も付加すべきでは。

答) 流水の研究は、重要事項と認識しているが、現実的に展望施設との併置は難しいと考える。

問) 既に、相当額の設備投資がなされ、多額の未償還額がある。採算面の根拠を示されたい。

答) 採算面で十分な検討をしていないが、建てかえ後展望台についても有料化する構想となっている。

問) 天都山地区への市民誘導策として、家族ぐるみで集えるアスレチック施設等を計画すべきでは。

答) 仮に、展望台建てかえ時には観光客偏重でなく、市民利用への配慮も大事であると認識している。

問) 過去5カ年で21件に及ぶ企業倒産があったが、連鎖倒産防止の観点から、共済加入企業に対し支援策を検討すべきである。

答) 支援制度創設済み自治体でも課題も多いとされ関係機関と協議を重ね、慎重に検討したい。

フッ素問題・観光振興対策・支え合いのまちづくり

民主市民ネット 平賀 貴幸



問) フッ素洗口やフッ素塗布についてWHOを初め国内外から副作用の懸念が表明されており、調査が必要。市としては今後どのように対応するのか。

答) 網走歯科医師会長の指導及び指示を得て実施している。今後も歯科医師会との連携を深め実施したい。御指摘の副作用等の調査についても、歯科医師会の御意見を伺い検討してまいりたい。

問) 食を通じたさらなる観光振興と、道内外における食のイベント出店補助などの促進策が必要では。

答) 観光協会や民間企業が行う商品開発や市民が取り組む地場産品を使った料理メニュー開発等に、情報提供や支援を積極的に行う。食のイベント出店補助については、出店ケース毎に目的や負担状況を勘案し、支援の必要性について判断をしたい。

問) 平成22年4月から施行された「北海道障がい者条例」への対応を市としてどう考えるか。

答) 今後、条例に明記されているワークシートの活用及び相談支援体制強化や、地域自立支援協議会の機能強化にいかにつなげていくか検討をしたい。

一般質問から

公用車の使用状況 かもめの糞害対策

夢みらい倶楽部 七夕 和繁



問) 公用車の現状を把握し公用車の使用状況実働データの分析を行う事が出来ないか。

答) 車両の管理については、維持管理費の削減も含め環境の面からも重要な課題であると考えているが、現在の車両のうち約半数が登録後10年を越え、中には15年を越えているものも多数あることから、これから車両の更新時期等において随時見直しを行いながら今後とも車両の適正な管理に努め一層の効率的運用を図るよう努める。

問) 現状では一部の外灯に鳥よけ対策を講じているが、まだ不十分な環境整備だと思われるが。

答) 網走港新港地区の漁港区には、現状では40基のエプロン照明が設置されているが、このうち36基の照明について鳥が留まらないように照明器具の上部に「防鳥(ぼうちょう)ワイヤー」が設置されている。御指摘のとおり、漁港区の衛生管理上、漁獲物の荷捌きを行うエプロン照明の防鳥対策は必要と考えるので、未対策の照明について対策を講じたいと考えている。

口蹄疫の予防防止対策 について

夢みらい倶楽部 水谷 洋一



問) 宮崎県で感染拡大している口蹄疫対策はどのようになっているか。加えて、野生のシカが口蹄疫に感染した場合、農水省管轄ではなく環境省とするならば、移動制限措置や、殺処分などの対応はどのようなのか。

答) オホーツク総合振興局に口蹄疫侵入防止対策本部が設置され、野生シカの監視体制を強化しているところ。野生シカに口蹄疫が発生した場合の殺処分を含めた具体的な防疫体制については、北海道からは、道内で口蹄疫が発生していない状況下で、取り扱いについて明確になっていない。殺処分薬剤は、道内で口蹄疫が発生した場合、北海道家畜衛生保健所が発生した市町村、農協と連携して速やかに薬剤による殺処分を行う体制を整えており、また、大規模な殺処分となった場合でも、道内の家畜衛生保健所が連携し、関係機関と協力して速やかに対処する体制を整えている。

市民生活の向上 大場市政3期目評価

公明クラブ 佐々木 玲子



問) 買い物難民600万人の報道があり当市も同様の状況だが、把握しているか、対策は考えているか。また、ラルズ撤退後再開の要求が強いが市としての対策をとったか、これからの方向性は。

答) 商店街の衰退や大型店の出店により、買い物弱者は増えている。昨春のラルズ撤退以降、本年1月に南東、南西、錦町、港町周辺2006世帯に「ラルズ閉店に伴う地域住民影響調査」を実施。87%が不便を感じ、特に南東地域41%の世帯が食料品購入不便と回答。ラルズ撤退に伴う連絡会議で検討を進めながら、別な方途の模索も考えている。

問) 今秋3期目任期満了となるが、就任以来財政改革に大なたを振るい、住民との対話を重視しきめ細やかな行政運営をされ、持続可能な自治体に改革したことに敬意を表し、4期目続投を望みたい。

答) これまで12年間、市政運営に全力を傾注し、公約も一部を除き達成。年齢に応じた、体力と気力の衰えを自覚し、さらに、4年間責任感と緊張感を持続させることは難しいと判断し、次期の市長選挙は立起しない意志を固めている。

保育所の民間化移行は 慎重であるべき!

日本共産党議員団 松浦 敏司



問) 地域主権改革の名のもとに、福祉や教育におけるナショナルミニマムを保障することでは国の責任を放棄するものではないか。市長の見解を伺う。

答) 住民に身近な政策は、その地域において住民の参加と協働のもとでまちづくりを目指すものであり、地方としても望むところである。

問) 認定こども園になると保育所と異なり直接契約や保育料・職員配置など対応について見解を伺う。

答) 認定こども園は、保護者が直接契約するが、入所申請書は園から市へ送付され、「保育に欠ける」かの判断は市が行う。保育料は、基本的に園側で設定するが、市へ届出が必要なので、適正を欠く場合、市が変更を命じる。職員の配置も他の認可保育所と同じ基準であり適切に配置されると思う。

問) 日本国民は、長生きを祝う習慣があるが、市のスポーツ施設における高齢者への割引がない。スキー場のシニア割引の声に答えるべきではないか。

答) 高齢者割引についての声は現場にも寄せられており、平成23年度から実施したい。

第2回定例会(6/15～6/23) 議決結果(抜粋)

○議案

平成22年度網走市一般会計補正予算	原案可決
平成22年度網走市介護保険特別会計補正予算	同
網走市職員給与条例の一部を改正する条例制定について	同
網走市生活安全条例の一部を改正する条例制定について	同
網走市体育施設条例の一部を改正する条例制定について	同
網走市公平委員の選任について	同意決定
網走市固定資産評価審査委員の選任について	同

○意見書案

地方財政の充実・強化を求める意見書提出について	原案可決
介護保険制度の抜本見直しに関する意見書提出について	同
食糧供給力の確保に必要な農業生産基盤整備の促進を求める意見書提出について	同
戸別所得補償制度の本格実施に向けた要望意見書提出について	同

○諮問

人権擁護委員候補者の推薦について	可と答申
------------------	------

市民の傍聴が
議会活性化の特効薬です!!

※次の定例会は9月2日(木)～22日(水)
開催予定です。

(一般質問は10日・13日に行う予定です)

- 詳細につきましては、議会事務局へお問い合わせください。

■ 問合先 TEL 44-6111 (内線 281・282)

市民参加・市政を知るよい機会です。
多くのおみなさまの傍聴を期待しています。

編集後記

夏本番の時期を迎え、海、山などの観光地は大いににぎわっていると想像されます。議会だより委員会は、議会の中で唯一、市長部局が入らない委員会です。そういう意味において、地味ながらも最も機動的な委員会だと自負しています。毎年、毎月、さらに読みやすく各委員が意見を出し合い取組んでおり、これからは議会だよりの発行にあたっては市議会の内容や活動をより詳しく知っていただきますよう紙面作りに努めてまいります。皆様の率直な御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。

(K・T)

一般質問から

整備を待ち望んでいた
住民の期待に応えよ

日本共産党議員団 飯田 敏勝



問) 車止内地区の道路整備について伺う。鉄南西3丁目を起点とする雨水排水路にまたがる車道や歩道は沈下などにより日常生活に不便を生じている。車道・雨水排水路・歩道の一体化した抜本的な整備計画を考えていくべきではないか。

答) 部分的な補修で間に合わず、抜本的な改良整備を予定している。整備にあたり車道の改良、雨水管設置区域への歩道整備を行い、支障のコンクリート壁の処理や住宅への出入り対策、軟弱地盤区域での工事方法も検討し一体的整備をしていく。日常生活に支障のある排水不良や損傷など改良整備をする間、当面、応急的な補修で対応したい。

問) ラルズ撤退後、中心市街地の高齢居宅者を中心に日常生活に必要な総合的生鮮食料品店を望んでいる。旧ラルズ施設の後利用を含めての対策は。

答) 8月頃に西1丁目の既存店舗にて新たな食料品の取り扱いが計画されている。さらに、金市館に対しての営業再開、商店街の積極的取り組みについて、関係団体とさらに協議を進めていきたい。

増加する生活保護世帯・エゾシカの農業被害・市民プールの
通年営業について

栗田 政男



問) 急増している生活保護世帯の対応として、ケースワーカーの増員等を検討されては。

答) 当市においても生活保護世帯は、この10年間で約6%上昇している。ケースワーカーも平成20年度より1名増員して対応しているが、今後も逐次検討する。

問) エゾシカによる農業被害は毎年増加しているが、一歩前進した対策を。

答) 平成22年度より駆除費をふやしたが、今後は「くくりワナ」技術の導入など増加に対応していく。またエゾシカの地域資源として有効活用できないか東京農大などと検討していく。

問) 市民プールの通年営業化の可能性

答) 市民プールは水泳だけでなく、水中運動等で広く活用されている。当市の市民プールは、寒冷地対策がなく大規模な改修に多額の費用を要するが、今後財政等を考えながら検討する。